

TGM

加工の自動化実現

少人化・製造品質を管理

TGM(東京都港区、澁谷秀一社長、03・5733・6261)は、イタリア・オプティマ社の板ガラス統合生産システム「Opty-Way Enterprise System」を販売している。業務システム(ERP)との連携の他、ガラス切断、ダブルエッジ加工、複層ガラス製造ライン、スペーサーベンダー、合わせガラス製造ライン、ウオータージェット、シャトルシステム、ガントリースystemなどの加工機、ガラス搬送システムと運動することで、加工ガラス製造装置の自動化を実現。最少の人員で製造できる少人化へシフトし、自動化による製造過程の均一化で安定した製造品質を確保するソリューションを提供する。

近年、従業員不足によって、一部休業を余儀なくされるという問題が世間をにぎわしている。工場でも需要に見合う働き手を確保できないといった状況になっている。一方で、4月から改正出入国管理法が施行され、国も人手を補うことを目的に外国人の労働力確保を促進している。このような働く環境が多様な人員構成になってきたものの、企業としては、従来の安定した品質を維持

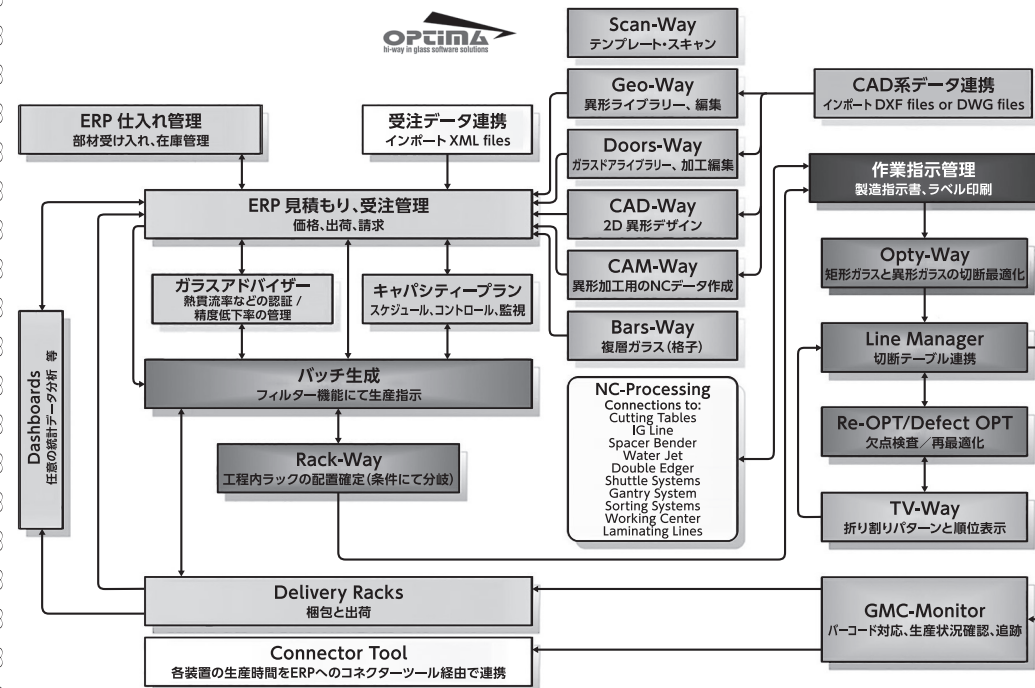
した製品を提供しなければならぬ。共有する情報、運用ルールなどを正確に、効率的に伝達するため、共有情報を一元管理したシステム運営が求められている。着目すべきポイントが、人の介入を極力少なくすることに考慮したシステムで、加工ガラス製造装置の自動化対応が重要な鍵となる。

コンピュータ、ネットワーク、その周辺機器の高速化が実現したこと

によって、高度で複雑な要求を短時間で処理できる環境となった。「Opty-Way Enterprise System」はこれらの技術を利用し、ERPとの連携

はもとより、ガラス切断機、複層ガラス製造ライン、スペーサーベンダー、ダブルエッジ加工、合わせガラス製造ライン

ン、ワークセンター(異形特殊加工機)、ウオータージェット、シャトルシステム、ガントリースystem、ソーティングシステム、工程間の搬送システム、加工機の自動化機能と運動することで、製造現場では少人化へとシフトできるとともに製造過程が均一となることで、製造品質をコントロールすることが可能になる。



イタリア・オプティマ社の板ガラス統合生産システム「Opty-Way Enterprise System」の概要